

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぼぼ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;i_gyosyoCd=2170500629-00&amp;PrCd=21&amp;VerSi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;i_gyosyoCd=2170500629-00&amp;PrCd=21&amp;VerSi.onCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成30年8月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれの想いやしたいことを受け止め、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、入居者様お一人おひとりとの関わりの時間を大切にしています。  
リビングからは中庭を眺めることができ、中庭を囲む廊下でご自分のお気に入りの場所を見つけて過ごしたり、自然の光を浴びて季節を感じることができます。中庭では野菜や花なども作り、手入れや収穫などもお手伝いして頂いたり、毎日の日課の中でも入居者様それぞれの役割を見つけ、些細なことでも継続して行うことを大切に、毎日の生活が楽しく生きがいのあるものとなるよう支援させて頂いています。また、大正琴などのボランティアの方の受け入れや隣接する施設での行事へ参加するなどし、できるだけ地域と繋がりながら暮らして行くことができるよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭を囲むようにリビング、居室が配置されていて、十分な光が差し込み、木目の鮮やかな木の床と相まって、落ち着いた雰囲気を醸し出している。ホームでは職員が利用者に寄り添い、利用者のつづやきにも耳を傾け、大切に受け止めている。例えば、編み物をやってみたいとつづやいた利用者に対し職員が一緒になって編み物を始めたところ、今ではすっかりその方の楽しみになっていたり、また、職員とともにクロスワードパズルに取り組み、懸賞に応募はがきを出すまでになる等、つづやきを受けとめ生活意欲の引き出しになるよう努めている。毎週、訪問看護が行われ、医療との連携が密に行われている。また、歯科医との連携も密であり、歯科衛生士の訪問も毎週ある等、口腔ケアも重視されている。自分たちの介護が理念に沿ったものになっているか常に自問している職員の謙虚な姿勢が感じられた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。毎朝の朝礼で理念・クレドの読み上げをし、周知徹底をしケアにつなげている。	些細な事と思われるような利用者の声に耳を傾け、その声を実現するよう努めている。日常のケアが理念に基づいているかどうか職員間で常に振り返りながら、利用者ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。	秋祭りには近隣の方々の参加があり、地域の子どもたちによるチアダンスや太鼓演奏の披露があったり、利用者、職員が仮装する等して、大いに楽しんでいるとのことである。また、近所で野菜を購入する等地域との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたく機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。	会議での資料は写真が多く掲載されているので、わかりやすい。会議の中で利用者ケアを巡って意見をいただき、それを職員間で検討する等、会議での話し合いをサービスの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。	運営推進会議には市担当課からの参加があり、事業所の実情を理解していただいている。また困難な事例があった場合には相談し、助言をいただく等、連携関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで話し合い、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。ご家族の強い希望により転倒防止の為にベッド柵をしている方はみえるが、解除できるよう話し合いを行っている。	どのような行為が身体拘束となるのか、身体拘束がどのような弊害をもたらすかについて研修や事例検討を通じて学びを深める機会を持っている。ベッドからの転落を防ぐため、ベッドの使用をやめたりする等、拘束をしない工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の対象の方はみえないが、今後、様々なケースに対応できるようカンファレンス等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信をできる場となっている。	洗濯物を上手にたたんでいただける、編み物に取り組んでみえる等、些細な事でも家族に伝えたり、たまにしか来訪できない家族には動画を見てもらう等の工夫をし、家族が意見を言いやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。	職員の働きやすさを確保するためだけでなく、利用者の外出の機会を増やすため、併設の託児所を利用するとか、今使っていない2階を利用してはどうか等、事業所が抱えている課題解決のための様々な意見や提案を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にバックグラウンドアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や墓参り、喫茶店等馴染みの場所への外出もある。	行きつけの美容院へ行かれる方、毎週のように教会へ行かれる方や馴染みの本屋へ出かけ、ついでに喫茶店へ行かれる方等あることである。併設施設の知人との面会の機会を設定することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間をもち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。	話がうまくできない利用者に対し、生家のことを話題にすると積極的に話をされるようになったことや、以前は日記をつけていたことを把握し、日記をつけるように助言したところ、字がしっかり書けるようになったこと等、利用者の思いや意向の把握に努め、生活の活性化に資するべく支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。毎日のモニタリングチェックや、ご家族からも日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。	毎月行われているカンファレンスでは定期的に訪問する医師の意見や、理学療法士の助言、利用者、家族の要望等を取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや隣接する託児所の幼児たちの来訪があり、入居者様の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。	ホームの職員はきめ細かく利用者の健康状態を医師に報告し、必要に応じ受診に繋がっている。緊急時には、夜間であっても迅速に対応できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。	医師や看護師の積極的な協力のもと、事業所において数多くの看取りを経験している。看取り時、家族の希望によりホームに宿泊したり、時間を問わず面会ができるよう配慮している。看取り後も話し合いをする等終末期ケアの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いている。	避難訓練では地域の方に一時避難した利用者の見守りを願う等、実際の場面を想定した訓練を行なっている。管理者は防災に関するセミナーに参加し、研修等を通じて職員の防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。	トイレ誘導に際し、「少し歩きますか」等トイレに行くという言葉を使わないで誘導する等配慮している。利用者と親しい関係が築けていても言葉は敬語を使うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度自由メニューを行っており、入居者様に食べたい物を伺い、できる限り季節を感じて頂ける物を提供している。お一人おひとりにできる事を手伝って頂いている。	訪問時、昼食に際し、利用者がデザートへの盛り付けをする等、職員と共に準備をしている様子が伺えた。また、テレビを消し、静かな曲を流したり、優しく声かけしたりして食事を楽しめるよう側面的な支援をしているが、決してせかさな姿勢で接する等して介護度の高い利用者もできるだけ自力で摂食できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。口腔内に異常が見られる場合は、法人内の口腔歯科医師の協力体制があり、ご家族へ連絡し歯科受診等の依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。	個々の排せつパターンを正確に把握し、確実なトイレ誘導に繋げている。利用者それぞれに紙パットを使用して、その人の身体状況に合わせたものを使用してもらっているので、紙パットを嫌がる人はいないとのことである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は火・金曜日と週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。	入浴剤を利用者に選んでもらったり、入浴後に保湿剤を塗布したり、利用者の状況に応じて入浴の順番を工夫する等して、入浴に対する意欲を高めるべく工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるように薬箱に一覧表を貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけでなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所へ散歩に出かけている。計画を立て、季節ごとに桜を見に出かけたり、いちご狩りへ出かけたりなどしている。ご家族の協力により、喫茶店や買い物などへ外出される方もみえる。	家族の付き添いで美容院へ行ったり、定期的に出外する利用者もいるが、利用者の重度化に伴い、日常的に外出がより困難になりつつある状況が現出している。	利用者の重度化に伴い、外出支援の困難さは増してくるが、遠くへの外出が困難になってきても外出の気分を味わっていただくためのとても素晴らしい中庭があるので、中庭の更なる活用に向けた取り組みに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は引き落としをさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床や庭の様子がよく見え、明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。	中庭を囲むように廊下があり、廊下にはさらに椅子や机を配置した空間があり、落ち着いた時間を過ごすことができる。中庭には、なすやゴーヤが栽培されていたり、洗濯物が干されてあつたりする等、生活感が感じられる。近くにトイレが配置されているが、トイレ臭や不快感は全く感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやたたみを設置し、好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。	居室はすっきりと整頓されている。壁面に家族の写真や利用者の作品を飾る等、利用者それぞれの個性や好みに合わせた居室になっている。また、家具を少なくする等、安全に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動ができるように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (れんげ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&amp;i_gvosvoCd=2170500629-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&amp;i_gvosvoCd=2170500629-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成30年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれの思いやしたいことを受け止め、ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、入居者様お一人おひとりとの関わりの時間を大切にしています。  
リビングからは中庭を眺めることができ、中庭を囲む廊下でご自分のお気に入りの場所を見つけて過ごしたり、自然の光を浴びて季節を感じることができます。中庭では野菜や花なども作り、手入れや収穫などもお手伝いして頂いたり、毎日の日課の中でも入居者様それぞれの役割を見つけ、些細なことでも継続して行うことを大切に、毎日の生活が楽しく生きがいのあるものとなるよう支援させていただきます。また、大正琴などのボランティアの方の受け入れや隣接する施設での行事へ参加するなどし、できるだけ地域と繋がりながら暮らして行くことができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。毎朝の朝礼で理念・クレドの読み上げをし、周知徹底をしケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたく機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはっと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで話し合い、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離脱の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。ご家族の希望により転倒防止の為にベッド柵をしていたが、環境設定を変更し解除できた方もみえる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の対象の方はみえないが、今後、様々なケースに対応できるようカンファレンス等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にも上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にバックグラウンドアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、美容院等、馴染みの場所への外出もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。毎日のモニタリングチェックや、ご家族からも日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや隣接する託児所の幼児たちの来訪があり、入居者様の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度自由メニューを行っており、入居者様に食べたい物を伺い、できる限り季節を感じて頂ける物を提供している。お一人おひとりにできる事を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。口腔内に異常が見られる場合は、法人内の口腔歯科医師の協力体制があり、ご家族へ連絡し歯科受診等の依頼をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火・金曜日と週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるように薬箱に一覧表を貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所へ散歩に出かけている。計画を立て、季節ごとに桜を見に出かけたり、いちご狩りへ出かけたなどしている。ご家族の協力により、喫茶店や買い物などへ外出される方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は引き落としをさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床や庭の様子がよく見え、明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動ができるように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		